



令和8年度(2026年度) ||| 令和12年度(2030年度)

概要版

しもやまスマイルプラン

《後期プラン》

しもやまスマイルプランって何？

この「しもやまスマイルプラン」は、私たちが住む下山を子どもたちの世代に引き継ぐために、将来の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。



下山の5年後の将来像



子どもの声が聞こえ、
笑顔で喜ばせるまち しもやま



みんなでめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」の減少を抑える取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による地域活動を次世代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境をつくります。

分野別プラン

「分野別プラン」では、定住・移住、子育て・教育、健康・福祉など以下の11の分野について、下山全体で取り組むべき施策と具体的な事業を定めています。

主に下山地域まちづくり推進協議会の構成団体（里楽暮らしもやま会、下山商工会、各自治区など）や豊田市下山支所などが中心となって、下山全域の課題解決に貢献する柱となる施策を推進します。



後期プランでは、以下の4つの項目について、重点的に取り組んでいきます。

項目	後期プランで取り組む方向性
定住・移住	「住みよさ」と「定住意識」の向上 生活利便性の向上と定住・移住施策の充実により、特に若年層・子育て世代の住みよさの向上を図ります。
観光	次世代が地域に誇りをもてる観光まちづくり 体験プログラムの開発や環境整備による地域資源の磨き上げや、戦略的な情報発信を関係者が主体的に取り組むことで観光まちづくりを推進します。
農地保全	省力的な管理手法の導入と新たな担い手の確保 耕作放棄地の解消に向け、地域外人材も含めた担い手の育成や、粗放的な農地管理（手のかからない管理）を推進します。
基盤整備	生活道路の計画的整備と安全対策の推進 住民生活に直結する道路の整備・補修を着実に進めるとともに、交通量変化に対応した安全対策を行います。

しもやまスマイルプラン《後期プラン》（概要版） 令和8年3月

発行：下山地域まちづくり推進協議会（事務局 豊田市役所地域活躍部下山支所）
TEL 0565-90-2111 メール shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

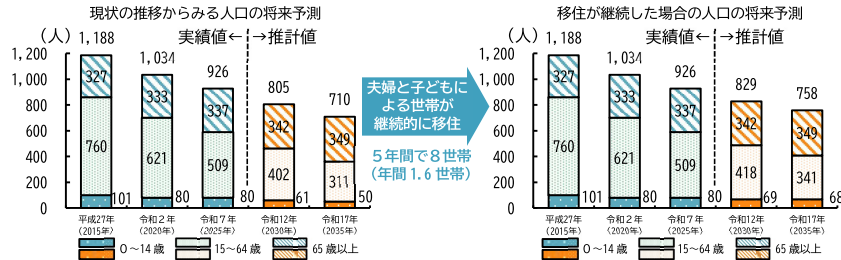


※本編は豊田市ホームページからご覧ください。

大沼自治区の人口データ

- 大沼自治区には、403 世帯、926 人の方が住んでいます（豊田市民基本台帳、令和 7 年 10 月 1 日現在）。
- 令和 12 年には 805 人と、今後 5 年間でさらなる減少が予想されていますが、継続的に若い世代が移住すると、人口構成の回復が期待できます。

大沼自治区の人口の推移と推計



夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住
5年間で8世帯 (年間1.6世帯)

大沼自治区の今後5年間の取組

- **取組1: 各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する**
～地域の環境(空き地・空き家・農地)の適切な管理と地域の維持・活性化のために～

住民が安心して暮らし、活気のある地域となることを目標に、空き地・空き家の活用や暮らしのルールの更新を行います。また、実家・農地を今後どうしていくかを各家庭で話し合い、適切な管理を進めます。また、移住者や地域外の人たちとの交流を深め、困った時に助け合える関係づくりを進めます。

- **取組2: 高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり**
～高齢になっても安心して暮らし続けられるために～

高齢者人口がさらに増加し、高齢者単身世帯も増える中、高齢者の見守りや声かけを地域ぐるみで行うとともに、地域の一員としての役割や交流の機会を提供することでつながりを創出して、高齢者の暮らしの充実を図ります。

- **取組3: 子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり**
～若い世代の定住性を高め、子どもの元気な声が聞こえる大沼をめざして～

子どもが元気に地域で過ごすことができるよう、地域と子ども、子育て世帯がつながることのできる機会を創出するため、八沢の丘公園の整備を進め、地域内外の交流の場として活用します。また、地域学校共働本部等との連携を深め、子育て環境の充実を図ります。

- **取組4: 誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する**
～「WE LOVE 大沼」の深化、継承をめざして～

先人の培ってきた歴史ある景観や文化を継承するため、高齢化により荒廃しつつある景観を外部ボランティアの協力を得ながら引き続き整備し、次世代につなげます。特に中心地のシンボリックな景観となるよう、大沼城跡や弘法山山道の整備を重点的に進めます。

- **取組5: 持続可能で未来につながる大沼まちづくりの推進**
～現在、そして未来の地域課題解決をめざして～

大沼まちづくり部会の定期的な開催や住民意識アンケートを実施し、地域課題の洗い出しや解決に取り組みます。また自治区メールやSNSを活用し、地域内外に向けて大沼の魅力を発信し、大沼のファンを増やすとともに、未来につながる大沼まちづくりを進めます。

大沼自治区の5年後の将来像

- 空き地や空き家、農地などが適切に管理され、美しく整備された景観が広がっています。
- 多くの空き家や新たな宅地が定住のために提供され、地域外からも多くの方が転入し、地域のコーディネートのもと、地域に溶け込んで暮らしています。
- 高齢者が地域の一員として、多くの人と関わりながら安心して生き生きと暮らしています。
- 子どもや子育て世帯がまちづくりに参画し、地域住民と交流しながら地域の子どもの健康やかに成長していくことのできる自治区になっています。
- 誇れる大沼の歴史や文化、伝統芸能を子どもに伝えるとともに、史跡や美しい景観が整備され、多くの方が訪れることで、誰もが「WE LOVE 大沼」の気持ちを育んでいます。
- 子どもたちに胸を張ってつなぐことのできる大沼づくりを推進するため、定期的にまちづくりについて検討する場を開催し、未来の大沼について考える機会を持っています。
- 地域外の人たちも大沼に魅力を感じ、大沼のファンとして機会のあるごとに大沼との関わりを持っています。



重点取組

	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1: 各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する	① 空き地、空き家調査、空き家予想マップの継続、見直し、改善				
	② 「次世代の生活・暮らしのルール」の更新				
	③ 空き家、財産管理、遺産相続に関する勉強会への参加				
	④ 移住者、地域外の人たちとの交流、意見交換会の促進				
2: 高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり	① 認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の継続実施				
	② 高齢者が集まる趣味グループとの懇談、活動PR、しめ縄づくりを使用した活動の拡大				
	③ 小学校(子ども会)との連携の検討				
	④ 自治区メールの利用促進、高齢者との双方向ツールの検討				
3: 子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり	① 八沢の丘公園の整備				
	② 子どもや子育て世代の交流・集まる場所づくり				
	③ 女性も集える場づくり				
4: 誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する	① 史跡を利用した交流事業の定例化、環境整備の実施				
	② 間伐材利用の事業の検討・実施				
	③ 自治区による支障木伐採の継続				
	④ 中心地のシンボリックな景観整備				
5: 持続可能で未来につながる大沼まちづくりの推進	① 効果的な情報発信方法(SNS、防災ラジオ)の検討、実施				
	② 大沼の魅力の発信方法の検討、実施				
	③ 住民意識アンケート実施				



重点取組



重点取組



重点取組



重点取組